

虫や植物とふれあうコンテスト 福山市立春日小学校
「せみの抜けがら」

藤井優月 六年 十二才

女

せみの抜けがら

藤井 優月

毎年夏休みに、おじいちゃんとおばあちゃんの家に行くとき、おじいちゃんとおばあちゃんのお庭の垣の上に張っている網の上に、たくさんのおせみの抜けがらがっついていきます。毎年、たくさんのおせみが土から生まれて、ここで羽化し、成虫になります。

せみのことを調べてみました。せみはかれ枝や草のくきなどに卵を産み、ふ化した幼虫は脱皮を繰り返しながら、数年から十数年、土の中で育ちます。そして幼虫が成長すると地上に出てきて、植物などにのぼって羽化し、成虫になります。成虫は数週間から1か月ほどのうちに交尾と産卵をして、死んでしまいうそです。せみが鳴くのは、オスがメスを探したり、呼んだりする求愛行動なのだそうです。

一度、虫かごで飼おうとせみを捕まえたことがありました。母さんに虫かごを見せると

母さんはすぐにセミを逃がしてしまいました。
「セミを捕まえてはだめだよ、あまり生きられ
ないから。」

と言われたことを覚えています。何年も何年
も土の中にいて、明るい場所に出るからは少
ししか生きられない、空を飛べるのは一週間
程度と聞いてびっくりしました。死んでしま
うなら、土から出なければいいのにと思いま
した。それでもきつと真っ暗な中で育ったセ
ミにとつて、木や空は憧れで、すごくきれい

に見えて、生きていることを感じさせてくれ
るものなのでしょう。

セミの抜けがらは、太陽に当たると茶色が
透けて見えてすごくきれいです。よく見ると
足や触角の先、お尻の横線まできれいに形が
残っています。また、それぞれ大きさお背中
の盛り上がり、手の大きさが違うなど个性的
です。成虫として飛び立った後も、抜けがら
が残っていることは、生きている証を残して
いる感じがします。

網を取ってしまえばいいと思うのに、それでもおじいちゃん、おばあちゃんは毎年きれいな網を張りなおして夏を迎えます。セミの抜けがらのオブリエを作っているみたいですよ。ここでたくさんの命を迎えていることでおじいちゃんとおばあちゃんは夏を感じているそうです。朝に公園でラジオ体操をしているのと、たくさんのセミに囲まれているように感じられるくらい、大きな声でセミが鳴いています。生まれたセミが一生けん命生きていることを教えているようです。今年も暑い夏を、セミと一緒に迎えます。